



第 23 号

2016年6月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市役所産業経済部商工政策課内
TEL 0748-65-0710
http://www.ac-koka.jp/koka-kijinkyou/

甲賀市企業人権啓発推進協議会第12回(平成28年度)総会 全議案承認され終了

去る4月22日(金)午後2時30分より、忍の里プララ(甲南町)において、甲賀市企業人権啓発推進協議会の第12回(平成28年度)総会が開催され、会員企業96名の参加(委任状105名)をいただきました。

総会に先立ち、平成27年度人権標語優秀作品の表彰が行われ、12名の方に田所会長から表彰状と副賞が贈られました。

続いて田所会長あいさつ、来賓祝辞(甲賀市産業経済部伴次長、ハローワーク甲賀 赤堀所長)と進み、議事に入りました。

審議いただいた次の5議案が原案通り満場一致で承認されました。

- 第1号議案「平成27年度事業報告について」
- 第2号議案「平成27年度収支決算について」
- 第3号議案「平成28年度事業計画(案)について」
- 第4号議案「平成28年度収支予算(案)について」
- 第5号議案「平成28年度役員(案)について」

田所会長は、昨年の経験を踏まえ、部落差別をはじめとする、あらゆる差別の撤廃に努力しよう!最近のラグビーブームに因み、ONE FOR ALL, ALL FOR ONE 一人はみんなのために、みんなは一人のために。チームワークも重要だが、一人ひとりが助け合うことが重要だと「一歩踏み出す勇気を持つよう」と発信されました。

引き続き、特別研修として『同和対策審議会答申50周年の今、問われていること』と題し、近畿大学人権問題研究所教授 奥田 均さんに講演していただきました。



熱心に講演される奥田 均教授

講演では、同和対策審議会答申が出された背景や、現実を直視することの重要性が説明され、今なお残されている部落差別について2012年3月の三重県における県民意識調査報告書に基づく分析から、『差別はみえにくい、主観で判断することの危険性を自覚しよう』と発信されました。

*ひどい差別・いじめほど深く潜行し会議をしたからといって、それだけで現実は見えないんだとの課題提起をされました。

女性差別・ライ病(ハンセン病)も同根の問題。韓国・朝鮮人差別は日本のみの現象との報告もされました。

また、障害者差別解消法の説明では「医療モデル」から「社会モデル」への変換が求められており健全者に対する特別な対応・・・5階建て以上の建物にはエレベータ設置が義務。合理的配慮・・・2階建てにエレベータが設置される。椅子・机の高さが調整される。阪神淡路大震災、東日本大震災時にはテレビに字幕が出なかったが、今回の地震災害から字幕が出て聴覚障害者にも現象が理解できるようになった。と事例も列挙しながら行政・企業として問われていることの報告・示唆をいただき有意義な研修会となりました。

最後に、今問われているものとして『あれはダメ、これはダメ』と言うと『人権人権とうるさい』などとなる。本当に必要なことを聴いてくださいと云うスタンスが重要と締めくくられました。

甲賀市企業人権啓発推進協議会

人権標語 入選作品発表

昨年12月に募集しました人権標語には107作品の応募をいただきました。その中から一次審査・二次審査を経て最優秀1点、優秀11点を決定いたしました。たくさんの応募ありがとうございました。



人権標語表彰を受ける受賞者



見つけたよ あなたの良いとこ またひとつ

甲賀協同ガス㈱ 前野 幸雄

知らんぷり、それはあなたも共犯者

(社福)あいの土山福祉会 飯塚知恵子

話し合い、わかりあい、助けあい、職場に「あい」を生み出そう

住友電工ウインテック㈱信楽事業所 村木 大祐

認めあい、みんなが主役の明るい職場

近畿労働金庫水口出張所 近藤 敏也

挨拶は 心をつなぐ合い言葉 みんなでつなぐ笑顔の輪

住友電工プリントサーキット㈱ 吉原 和孝

「大丈夫?」寄り添う声で ほどける心

(社福)甲賀会 井上 有子

あなたに届け みんなに届け 笑顔広がるまあるい心

平和発條㈱滋賀工場 安村 尚子

何気ない態度と言葉にある差別 かえよう かろう 自分から

NEC SCHOTTコンポーネンツ㈱ 福田 浩味

思いやる心と言葉で生まれる笑顔 みんなで作ろう明るい職場

住友電工プリントサーキット㈱ 野崎 景子

笑顔よぶ あなたの一言 思いやり

㈱コーガイイントープ 上野亜紀子

あいさつは 心の扉を 開くカギ

甲賀協同ガス㈱ 前川 智樹

そんな些細な一言も あなたにとっては「これくらい」わたしにとっては「こんなに」

(社福)甲賀会 中村 彰宏

平成28年度事業計画

1. 会議
 - 総会 4月22日 適時
 - 理事会・専門部会
2. 研修部
 - 総会特別研修 4月22日
 - 経営者トップ研修 7月15日
 - 人権フォーラム 9月
 - 会員対象フィールドワーク 10月
 - 会員企業従業員対象研修(甲賀市と合同) 12月
 - 役員対象フィールドワーク 2月
3. 啓発・広報部
 - 広報誌発行 2回/年 6月・12月
 - 会員企業向け啓発グッズ配布 7月
 - 人権パネル展 9月
 - 人権標語の募集 12月
 - 人権標語ステッカー配布 3月
 - ホームページの更新(充実) 都度
4. 雇用部
 - 就労困難者対象パソコン教室(5日間) 9月
 - 役員対象 障がい者雇用にかかわる学習会 11月
5. その他
 - 会員拡大に向けた取り組み 年間
 - 関係団体との連携 年間

企人協役員対象

平成27年11月26日(木)

「障がい者雇用にかかわる学習・懇談会」

11月26日(木)企人協役員対象「障がい者雇用にかかわる学習・懇談会」を市役所職員と共に実施しました。今回の取組は、企人協として初めての取組で、甲南高等養護学校様のご協力により、授業(将来の就労者)風景を見学、その後「甲南高等養護学校教職員」の皆様と懇談させて頂きました。

校内見学では「国語の授業」、「花壇の植え替え作業」、「パソコンを使った情報の授業」、「ものづくりの作業場」等を見学させて頂き、生徒さん達の意欲的な様子やにこやかに挨拶してくれる様子に見学者からも自然に笑みがこぼれる、明るい活発な空気を感じました。その後、懇談の前に副校長先生から学校の概要を説明して頂き、「高等養護学校」とはどういう学



企人協会員企業従業員

人権研修会を実施

平成27年12月15日(火)

去る平成27年12月15日(火)に忍の里プララにて、会員企業の従業員の方を対象にした人権研修会が257名(243社)のご参加のもと開催されました。

シンガーソングライター「yokkko(ヨッコ)」さんを講師に、『耳を澄まして心の叫びを聴きとろう!』というタイトルで音楽をとおして学ぶ人権手話ライブという形の研修会でした。

歌手になられてから原因不明の病で声が出なくなった時、手を握って貰い手の温もりを感じ言葉以上に思いを伝えられる手があると手話を習われた。

耳の聞こえない方が音楽を好きだという、聞こえないのにどうして好きなのかわからなかったが「音楽は体で感じて楽しむもの」と手話の先生が話された。

この言葉で聞こえない人には音楽は分からないだろう…と勝手に考え思い込んでいた自分がいた、自分も人と違う音楽の楽しみ方があり、違って当たり前なのに勝手に思い込んでいたことが偏見、差別であると感じき自分の価値観で決めつけていたことにショックを受け恥ずかしくなったと話された。

企人協会員対象

平成28年2月19日(金)

フィールドワーク研修を実施

2月19日に企人協会員フィールドワーク研修に参加しました。訪問先は岐阜県加茂郡八百津町の人道の丘公園に建つ杉原千畝記念館です。少し前まで公開されていた映画の反響もあってか、平日にも関わらず見学者が多く入場されておりました。

記念館に向かうバスの車内で加藤剛さんが主演されていた杉原千畝の旧作品も鑑賞し時代背景や内容を把握し入館いたしました。

到着後、まず國枝館長より、杉原千畝さんはリトアニアの大使に就任されていた時、ナチスのホロコーストから逃れて来たユダヤ人6000人に外務省の判断に背き人道的な立場から通過査証を発行し、日本を経由地として外国にユダヤ人が逃げる手助

校かを初めて知ることが出来ました。“甲南養護学校が平成19年4月に甲南高校の校舎を利用して、併設として開校された”、“高等養護学校は滋賀県には3箇所しかない”、“1クラス8名で現在1学年3クラス”、“校歌は甲南高校と同じ(養護学校開校にあたり歌詞に変更があった)”、“卒業しても高卒資格なく、学歴は中卒となる”等、初めて知ったことがたくさんありました。

懇談会では学校、企業、甲賀市の障がい者雇用にかかる取組やそれぞれにお願いしたいこと、疑問、体験談等、活発に懇談が進み、お互いが理解を深める、“そんなことも知らなかった”と視野を広げ、今後の障がい者雇用のヒントになる良い機会になったと思います。懇談としてはまだまだ浅く、深めるまでは行きませんでした。懇談する意義を見つけられた、「今後も継続したい」という声も出て、キックオフに繋がるような、懇談会だったと思います。まさに“行ってみて初めて分かる学習会でした。今後さらに、障がいを持った人たちが働きやすい職場、企業側もそれらの人たちを活用できるような仕組み、風土を育み、共に成長していける職場、真のダイバーシティ企業が增えることに期待します。(社福)信楽福祉会 谷口義幸・記

耳の聞こえない方にも自分の歌を聴いて貰いたい!と手話をしながら歌う活動を始められた。

自分は普段、自分自身をどんなふうに見ているのか、他人をどんなふうに見ているのか、自分の価値観で思い込み決め付けて見ていることはないだろうか、と立ち止まり考えてみるのが大切だと改めて考えさせられるお話でした。

ライブの中では会場全員で、歌詞の手話を教わった後、歌いながら手話シンガー体験をしました。日常的な挨拶や干支、近畿2府4県などの手話も教わり参加型のライブで楽しく学びました。

「人は生きていく中で、事故にあったり災害が起きたり等いつ何が起こってもおかしくない、たった一度しかない人生は自分しか生きられない大切な時間、自分の心と身体は1つしかない。自分が元気でいられれば、周りを見る事ができる、人を気遣うことができる。一期一会を大切に一生懸命生きよう!」とライブの最後に話された言葉が印象に残る研修会でした。

(社福)甲南会 せせらぎ苑 小嶋薫里・記



けをされた事が勇気ある行動と評価されていますが、これは杉原千畝さんだけの力ではなく、多くの国の人や日本人のそれぞれの立場の人々の力添えがあってこそユダヤ人を救えたと話されました。杉原千畝さんは組織人として葛藤された末、人道や博愛を考え行動されましたが、一人を英雄視するのではなく協力者がいた事こそ勇気ある人助けが実現できた要素でした。杉原千畝記念館の意義は ①難民が起こらないようにする。②いけない事は「いけない」と言えるようにする。③協力者が必要である。)と考えていますとお話されました。

杉原千畝さんの孫がおじいちゃん人道ってなに?と質問したとき「周りの人を大切にすることだよ」と答えられたそうですが、私たちも人権ってなに?と質問されたときにも「周りの人を大切にすることだよ」と言えるように研修を重ねていきたいものです。医療法人社団仁生会 甲南病院 吉村和雄・記



7月は「なくそう就職差別 企業内公正採用・人権啓発推進月間」です